

小美玉市の歴史を知らう⑱ 戦国時代 四五〇年前の祈り 掃部衛門の碑



希望ヶ丘公園の入口に「掃部衛門の碑」と呼ばれる小さな碑があります。もともとは、園部川を臨む台地先端（現農村環境改善センター）にありましたが、竹原中学校

掃部衛門の碑の大きさは、高さ92cm、幅78cmであり、図像は、中央に前かがみの阿弥陀如来が飛雲に乗り、来迎印を結んでいます。なお、腰

建設などによって、何度かの移転を余儀なくされて、現在地に所在しています。

この碑は、筑波山南東麓で採取される雲母片岩の板石に阿弥陀三尊来迎図が線刻にて描かれていました。そもそも来迎図とは「阿弥陀如来を信じていれば、亡くなった際には、極楽に導いてくれる」との阿弥陀信仰を表現したものです。

茨城県内では、線刻で表現した板碑は十数例確認されており、一番古いものは、つくば市古来に所在する阿弥陀三尊板碑で文永9年（一二七二）に建立されています。

を屈めた観音菩薩（右下）と勢至菩薩（左下）が両脇にひかえる三尊型式となっていました。三尊像の両側には、建立の趣旨、施主名、紀年などの銘文が刻み込まれています。これによると、栗原掃部衛門という人物が父母の供養のため、今から四五〇年前の一五六一年（永禄四年辛酉卯月廿九日敬白）に建立したことが分かります。

言い伝えによると、この碑の南東側に立地する竹原城主の配下に四天王と呼ばれる武将がおり、施主の栗原掃部衛門は、その中の一人とされています。この碑が建立される2年前である永禄2年（二五五九）、竹原城は、府中城主大掾貞国が江戸氏の侵攻に備えるために支城として築城されました。竹原城主は貞国の弟である竹原四郎義国です。

小美玉市内では、江戸時代より以前で、はつきりとした年代の分かる文化財は非常に少なく、この碑は、戦国時代の阿弥陀如来信仰の広がりや父母の冥福を祈る戦国武将の信仰の一端を垣間見ることができる貴重な文化財の一つと言えます。



無着色 畳で健康生活 **熊本産**
畳・襖・障子・アミ戸 **創業300年**
謹賀新年
 本年もよろしく
 お願いいたします

国産品の
相川畳店
 地域一番安い！
 ☎ 26-0669
 石岡市旭台1-15-1

茨城空港内にある旅行の専門店です
JTB セントラルツーリスト 茨城空港店

小美玉市与沢 1601-55
 茨城空港 1 階

● 営業時間 9:00 ~ 17:00
 ● 年中無休
TEL: 0299-54-0500